

青森県民元年の知事選

いのちをテーマに選挙戦を闘った私たち。それに対してそのテーマに応えようとせず、旧来の経済だけで押し切った三村。しかも、ほんの一部のお金持ちの経済だけに応えて。

核燃で命があやうく、戦争法案で命があやうい有権者が、13万人もの同じ思いの県民が応えてくれた。が、その2倍以上の人びとが、なにをを考えてか考えないでか、命を守らない勢力を支持した。また、棄権した残り的人たちは自分の命が惜しくないのか、あるいは間接民主制に愛想がつきたのか、一票の権利を放棄した。

これが選挙というものか、これが間接民主制というものか。

この現実を直視し、終戦までいや敗戦までさかのぼって来し方を総括し、あるいは青森県の歴史を振り返り、これからの、命を守る政治を取り戻す作業を今始めなければならない。そういう青森県民元年の知事選でたしかにあった。

松田耕一郎